

荒川区区政改革懇談会

第4回福祉・健康・子育て分科会 議事要旨

【日時】

9月13日(水) 10:00~12:00

【場所】

荒川区役所 3F 議員待遇者控え室

【次第】

ステップ1：本日のプログラムの説明

ステップ3：次回の討議に向けた話し

ステップ2：「幸せ」についてのフリー

合い

ディスカッション

ステップ4：その他

ステップ1 今日のプログラムの説明

コンサルタントより前々回に出されたテーマ“子育て”について、まだ話し合えていない旨の説明あり

ステップ2 「幸せ」についてのフリーディスカッション

- ・最近の子育て相談の窓口が増えた。母親同士の交流の場もあり、また子育ての情報をわかりやすく提供されていると思う。
- ・都電の「荒川7丁目」停留所のそばにある“山吹ふれあい館”は年代に関係なく、すべての区民が利用できるのが良い施設だと思う。
- ・区政モニターをしているが、荒川区は他区と比べて乳幼児・児童の医療費補助の取り組みが遅れている。少子化対策を含め拡充すべき問題があると思う。少子化は教育費がかかりすぎることが原因の一つである。
- ・私立学校に行かせる家が多い。
- ・公立学校と私立学校では、学校環境等の違いにより、今は私立を好む傾向にある。公立学校をいろいろな面で改善すべき。
- ・個々の子育て支援施策を議論する前に、例えば核家族が子育てに悪影響なら、一世代しか住めないマンションのような住宅は作らないようにするなど、大きな視点に立って考えることが重要だと思う。
- ・まちの中に子どもに対する関心が感じられない。子どもに対して邪魔みたいな感じを持つ人が多い。地域の子どもを皆で育てると意識の啓発を区が行えば違ってくるのではないか。自転車で走行など、子どもへの配慮が無く危険を感じる。看板等で自転車走行の規制を呼びかけて欲しい。
- ・道路にも問題がある。歩道が平らでない。
- ・エコを考えると自動車より自転車を増やす方が良いが、歩行者との問題も出てくる。

- ・自動車が多すぎる。自動車産業は日本にとって大きな利益を生むものなので造りすぎ、売りすぎが起きている。
- ・規制をゆるめると自己規制ができない。
- ・今の若者に自己規制ができない人が多い。教育の問題である。
- ・人が人を育てていく力が無くなった。しっかり子どもを叱るところがない。学校の先生も親からのクレームがこわくて叱らない。親もおこらない。しつけをする場所がない。
- ・学校は勉強を教えるところ、しつけは家庭でという先生が増えている。
- ・本来、学校は勉強を教えるところで、しつけは家庭で行われるという昔の形に戻らないといけない。学校の先生は、忙しすぎて授業の準備に時間がかけられないのが現状である。
- ・家庭の中で、先生や父親の権威がなくなっている。そこにも問題がある。
- ・今の子どもがおとなになって子どもを育てるとなるとどうなるのか。
- ・公共のものを大切にするという考えがない。
- ・子育てに関しては、メディアからの影響と日用品から体内に入った化学物質などの環境ホルモンによる精神への影響が心配である。情報提供にも問題がある。環境を汚染せず、人体にも安全な物を使うようにしている。日本は基準があまく、危険とされている物質が少ない。値段は高いが安全な物を使用する事で心が豊かになる。もっと多くの人に理解してもらいたい。また、ゲームが脳に大きな影響を与えているらしい。
- ・ゲームによっては、前頭葉に影響が出てしまうらしい。情報を提供し、選択は個人に任せるのは良い。しかし立証されないと情報は提供されない。立証はできていなくても情報としていろいろなところで提供しても良いのではないか。
- ・人体に影響が出るようなものは、早めに行政から情報提供が欲しい。
- ・情報提供で上手な啓発が必要である
- ・昔は、母親は元気であり悩んでいる人はあまりいなかったように思う。
- ・幼稚園と保育園があまりにも違いすぎる。保育園に入園させたくてもできないことも多い。仕事が決まらないと入園しにくい。兄弟で同じ保育園に入れない場合もある。
- ・皆が望む低負担、高福祉は無理だと思う。
- ・子育ては「心育て」である。子どもたちがもっと障害者や高齢者とふれあえる場所を作って欲しい。支え合うことの大切さをしっかり子どものうちに教えるべきだと思う。自分のことしか考えない人が多い。選択制でも良いので、学校教育の中でしっかり福祉に関する知識を学ばせてほしい。
- ・今の子どもは想像力が乏しい。親が甘やかせて過保護になっている。子どもは「つ」の付くうちに心を育てるというが、9つ(9歳)までに奉仕の心とかをしっかり教育することが大切。
- ・良いものを培うことは時間がかかり難しい。今の学校教育は、大変なところにきている。
- ・障害児は養護学校等に行かせ、普通学級の子どもとのふれあいが少ない。
- ・高齢者と子どものふれあいも大切である。ふれあい館でも囲碁とか将棋とか一緒にできる機会があったら良いと思う。

- ・ふれあい館では仕事を教えてもらったりする時間もある。決められた時間以外で、自然にふれあうことは少ないように思う。高齢者と子どもがただ一緒にいるというだけでも良いことであると思う。
- ・障害者自立支援法ができたのは、財政上の問題が影響していると思う。
- ・荒川区が独自で施策を行うとすれば、財源を確保するため荒川区の産業として何かを立ち上げてシステムをつくることも考えられる。
- ・荒川区が新しい独自のシステムを持ったら、福祉全般に生かせる。
- ・大企業を誘致するのではなく、荒川区独自の産業の力でやれば良いと思う。
- ・財政を考えると、国等をあてにしないで荒川が独立して行うことが良いと思う。
- ・路地裏を見直したら良いと思う。路地はアスファルトをはがして土の路地にする。子どもの遊び場にもなるし、昔のように子どもの声が聞こえるまちになる。荒川はそんなところであって欲しい。
- ・子育てとか高齢者とか分けて考えないで、町全体で目指す方向を定めるようなことにしないとだめ。
- ・福祉という概念を区民全体に広めることが大切である。荒川独自で産業会館等をつくり、産業の活性化を図り、障害者雇用（割り当て雇用）に力を入れたりして10年後・15年後を見据えた行動を開始すると思う。
- ・荒川区内に介護付きの高齢者用住宅を整備してほしいし、医療機関も不足していると思う。

ステップ3 次回の討議に向けた話し合い

- ・10年後・15年後にこんな荒川区にしたいという姿をみつきたい。いままでの意見として出たアイデアを抜き出してまとめ、方向を見つきたい。財政面や実現できるかどうかにとらわれずに理想の状態を出し合って、話し合いたい。
今までの意見を議事録から抜き出した資料を作成し、提示することとした。
次回は健康についても話題があれば話し合った上で、今までの意見の中からアイデアをまとめる。

ステップ4 その他

次回日程について

今回は、10月18日（水）10：00～

以上